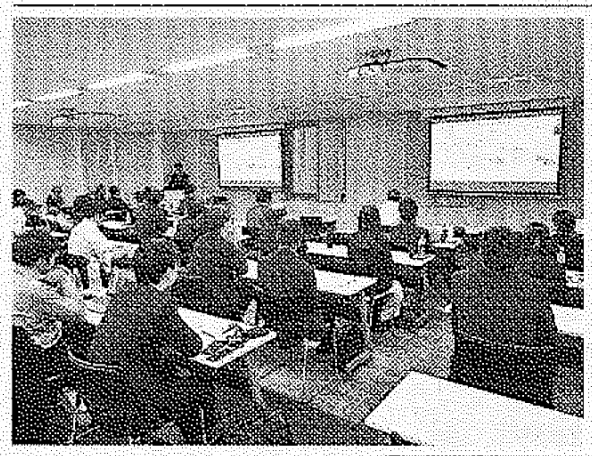
建設通信新聞

設計意図現場へ
技術適用を議論
SPの会と日測協
空間情報未来会議

スペーシャリストの会（SPの会、早川和夫会長）は4日、福岡市のリファレンス駅東ビルで日本測量協会（清水英範会長）との共催による「2025年空間情報未来会議（SPの会全国大会）」を開いた＝写真。SPの会の25年度総会や基調講演、パネルディスカッションがあった。

早川会長は「今年は設立20周年という大きな節目を迎えた。一人ひとりが持つ専門性と経験、ポテンシャルを認識し、社会に広めることが業界の発展に不可欠だ」と協会活動への協力を呼び掛けた。



総会では、24年度事業報告、25年度事業計画・予算案などを承認した。役員改選で関西支部長に永田忠之氏（パスコ）が就任した。25年度は、空間情報監理技術者の活躍の場づくり、27年出版予定の「実務者向け空間情報利活用事例集」の企画準備、出前講座などに取り組む。

早川会長

総会後は、デジタルアーキテクチャ・デザインセンターの田嶋聡司氏が3次元空間内の位置を特定する共通規格「空間ID」の取り組みと空間情報の未来をテーマに基調講演した。

パネルディスカッションでは、田嶋氏と、ゼンリンDB戦略本部の村山貴裕部長、ローカスブルーの宮谷聡社長、九電ドローンサービスの古賀俊生福岡エリアマネージャーをパネリストに迎え、空間IDの設計思想と異業種連携の事例を土台に、先進技術の設計意図の現場への適用について議論した。